



かわい



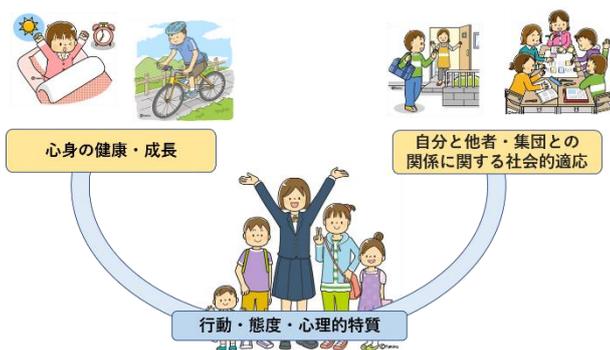
<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawai/>

「社会情動的コンピテンシー」を育てる

校長 窪田 剛久

今年の11月、東京都心では観測史上初めて夏日が3日となりました。11月7日には最高気温が27.5度となり、1923年（大正12年）の11月1日に観測した27.3度を上回り、100年ぶりの記録更新となったそうです。私は覚えていなかったのですが、今年初めて夏日を記録したのはなんと3月24日。都心では1年のおよそ4割が夏日となりました。ただそのあと急に気温が低下し、次の週には最低気温が10度を下回り、上着無しでは過ごせないような朝を迎えています。「体がついていかない」とはよく言ったもので、職員も子どもも体調が不安定になっています。暑くなる季節によく使われていた「暑熱順化」という言葉ですが、これからは「寒冷順化」という言葉も頻繁に使われるようになるかもしれません。

さて、気候が数年前とは大きく変動している中、教育界も大きな転換期を迎えています。今まで私たちが受けていた教育の中で大切にされていたものに、テストの点数や記録、タイムなどがありました。もちろん今でもそれぞれの子どもの成長を知るうえでそれらの資料はとても大切です。このように点数などで可視化・数値化できる能力を「認知能力」と言います。それに対し今注目されているのは「非認知能力」です。「非認知能力」とは、いわゆる意欲・好奇心など感情や心の動きに関わる能力です。そうした非認知能力が、子どもの成長や学力の伸びとどのように関わっているのかについて、研究が始まっています。



「非認知能力」がカバーする範囲は大変広いので、国立教育政策研究所では児童生徒の生活や発達に重要である非認知能力、「社会情緒的能力（社会情緒的コンピテンス）」に関する研究を展開しています。同研究所では「社会情緒的コンピテンス」を、『自分と他者・集団との関係に関する社会的適応』及び「心身の健康・成長」につながる行動や態度、そしてまた、それらを可能ならしめる心理的特質』と定義しました。言葉にすると大変難しいですね。私なりに解釈すれば

「友だちや家族、クラスなどになじんだり、心や体を健康に保ち成長させようとしたりしようとして行動すること、及び振舞ったりすること。また前向きにしようと思える気持ち」なのかと思います。「みんなとうまく生活していきたい」「気持ちが明るく、体も健康でいたい」とは皆さん思うことですね。ただ思うだけでなく具体的な行動に移す力や、行動に至らなくてもそこに結び付く振る舞いがとれることが重要なのだと思います。ではどのようにすればそうした力は育ち、身に付くのでしょうか。

横浜市では「主体的、対話的で深い学びの中で社会情動的コンピテンシーは育つ」と仮説を立て、研究しています。川井小学校では体験的な活動、またそれを実現する中で取り組まれる協働的な学びを大切にしています。その積み重ねのなかで子ども達はコミュニケーション能力を伸ばし、それぞれの活動が円滑に行われるように具体的に行動する力も高めてきました。学校生活を通して「主体的、対話的で深い学び」を積み重ねていると言ってもいいでしょう。

横浜市は学力・学習状況調査で以下の社会情動的コンピテンシーの測定を始めました。

メタ認知	自分の学習状況を把握し、それを踏まえて行動を調整する力
知的好奇心	物事に興味・関心を持ち、自分から進んで取り組む力
知的謙虚さ	自分の意見に謙虚な姿勢を持ち、意見を柔軟に変更する力
共感性	困っている人に共感したり、助けてあげたりする思いやり

川井小学校の実践を通して好奇心や主体性、謙虚さや共感性、人を助けたり自分を伸ばしたりするための行動力が育っていくことを願っています。保護者、地域の皆様にも、子ども達にそういった気持ちや行動が見られた際にはぜひ褒めて、価値付けしてあげてほしいと思います。家庭、地域とまさに協働してかわいっ子を育てていきたいと思っています。教育界の急激かつ大きな変動にも対応していけるように、私たちは努力を重ねていきます。これからも川井小学校の教育的実践に、ご理解とご協力の程、よろしく願いいたします。